

会議記録書	
会議名	第25回草津市図書館協議会（委員発言・質問、事務局事業説明・回答要旨）
日時	令和元年7月3日(水) 13:30～15:15
場所	草津市立図書館 2階 会議室2
出席者	岸本委員長、藤居委員、市川委員、石本委員、新谷委員、澤村委員 (欠席：高山副委員長、高井委員、乗越委員、久保委員) 事務局（武村図書館長、二井副館長、田中副館長、川端副館長、齋藤） 草津市生涯学習課（相井課長、矢野係長、奥田主任）
傍聴者数	1名
記録作成者	図書館 齋藤

## 1. 開会挨拶（武村図書館長より）

- ・今年2月に開催した前回の協議会で図書館運営計画の見直しについてご意見をいただいた内容を基に事務局で再検討をし、改めてご提案する。
- ・今年1月実施の図書館アンケートの集計結果がまとまったのでご報告する。
- ・委員の皆様がの任期が8月で満了となるため、このメンバーでの協議会は今回で最後となる。

～ 出席者各自、自己紹介 ～

## 2. 議題

### (1) 第24回草津市図書館協議会議事録の承認について

#### 資料1 会議記録書

- ・議事録は要旨のまとめとし、参加委員全員の承認を得た。ホームページにて公開予定。
- ・協議会は図書館側からの発信だけではなく、市民が図書館をどう見ているのかという点において注目される部分であるので、今後も活発な議論をお願いしたい。

### (2) 「草津市の図書館運営計画」の見直しについて

#### 資料2 図書館運営計画 【改訂後④】

- ・前回の図書館協議会でのご意見を踏まえ、見直しを行った。

#### 【変更点の説明】

＜1＞各項目の主な施策・事業内容の文言の変更点について

(具体例)－⑥「来館困難者」を「来館困難者（乳幼児の保護者・入院患者等）」に変更 等

＜2＞各項目の主な施策・事業内容の移行、追加について

(具体例)－①、⑩、⑬、⑲、⑳～㉟、㉿～㊳を現状に合わせて追加

⑩、⑪を広報活動の強化である点に重きを置き、めざす図書館像①へ移行 等

#### ○委員意見

- ・おおよそこれまでの協議会での議論が反映された内容となった。

- ・主な施策・事業内容②について、ビジネス支援等の部分に力を入れてもらうのは良いことだ。ビジネス書を並べる＝ビジネス支援ではないという課題を踏まえて今後も可能な事から対応いただきたい。  
→図書館職員は、ビジネス支援のために研修に出向くなどした。ビジネス支援は現在注目度が高い。専門スタッフの配置などはまだ難しく、どこまで実現できるか分からないところもあるが、元々公共図書館にあったサービスでもある。展示をすると多くの利用があったので、今できる事から充実させていきたい。(事務局)
- ・レファレンスサービスについて、存在を知らない人が多い。1度利用すると満足度が高いサービスであるので、サービス内容の広報も必要かと思う。
- ・公園で紙芝居をやると反応が良い。図書館から外に出向いていく活動が大切と感じていたので、出張ブックトークは効果的な活動だと思う。
- ・司書が図書館を出て、外で仕事をする機会は今後も増えていくと思うので、そういった場面で職員のスキルアップという意味でもブックトークは有効。
- ・正規職員、嘱託職員の司書職員は全員ブックトークができるということの評価する。学校で1クラスに対して1時間授業を受け持つことができるというのは大変な仕事である。
- ・電子書籍について、読むことができるタイトルが少なく、費用対効果も低い。図書館での導入を考えた時、宣伝効果以外のメリットは少ないかと思う。
- ・デジタルアーカイブについて、滋賀県立図書館では滋賀県の資料をデジタルで公開しているが、個別の図書館で(草津の資料を草津の図書館で)取り組むのは、サーバーのことも含めて厳しいと思う。広域連携で地域のいくつかの市立図書館が共同で取り組んでいくことを視野に入れてもらいたい。
- ・デジタルアーカイブをWEB上で公開することは草津の魅力を外部に発信することにつながる。群馬の草津町の図書館には、観光コーナーがあり、観光客の利用も多い。

### (3) 図書館利用者アンケートについて

#### 資料3 利用者アンケート

〈アンケート結果報告(資料3参照)〉

- ・前回の協議会では速報ということでお伝えした。
- ・各館の特徴が分かるようにというご意見を基に集計結果を取りまとめた。  
(具体例) 南草津図書館は、南草津駅直結で20時まで開館していることから、利用者層に特徴がある。(年齢層が若く、草津市以外の在住者の利用も多い 等)
- ・前回の意見にあった「回収率の低さ」については、いただいたご意見を参考に改善に取り組む。
- ・細かい分析はこれから行っていく。

## ○委員意見

- ・本館と南館の結果を比較できるようになり、資料が見やすくなった。
- ・返事などの反応があるとアンケートを書いてよかったと思ってもらえるので対応をこれからもお願いしたい。
- ・利用者の年齢幅はどうか。  
→上は90代の方にも御利用いただいている。若い世代も、小学生が自分で来館して利用していることは多い。しかし、今回のアンケートはおよそ中学生以上を対象としているので、アンケート結果には入っていない。(事務局)
- ・幅広い世代が交流できる場というのは、今の時代は図書館だけではないか。
- ・高齢者サービスは福祉的なものだけではない。元気な高齢者の過ごし場の場としての図書館の役割も大きい。
- ・世代間交流や地域貢献のきっかけとなるような仕組みをこれからの図書館は考えていかないといけないのではないかと。図書館まつりは、そういった場としての役割も担っている。
- ・新聞、雑誌を読むために来館している人が一定数いるという結果が出たが、読むためのスペースがない。物理的な問題があるので大きな改善は難しいのは分かるが、何か工夫できないか。
- ・着席スペース（自習スペース）があつたらあつたで問題も多いと聞く。物理的な問題もあるので、今できる範囲での工夫を何か考えていただきたい。
- ・隣の薬局と図書館の間の広場の存在を最近まで知らなかった。あのスペースをもっと活用できないものか。
- ・特に幼児向けの本においては傷みが早い。利用が多く、修繕不可能な本の買い替えなども含めるとそれだけ本の購入が必要。図書購入費の増額をお願いしたい。図書館の資料は市民の財産。
- ・滋賀県の公共図書館全体で1年間に1000万冊貸出がある。並べると約240km、琵琶湖一周分にもなる。これは滋賀県民の力となる。

## (4)その他

### ○武村館長より

- ・8月31日をもって公募委員の任期が満了となる。9月1日以降に就任いただく公募委員を募集中である。
- ・京都で図書館の本が山中に不法投棄されていた問題について、不法投棄された本の中に草津市所蔵のものは無かったが、例年、一定数は行方がわからない本（不明本）の被害がある。

しかし、昨年の10月よりICタグによる資料の管理を導入し、出入口にゲートを設置した。それ以降の被害点数はほぼゼロである。今後も蔵書点検は行い、蔵書の管理を行っていく。

#### ○委員意見

- ・図書館の本は装備されているので換金はできず、書店と比べて盗難被害の割合が非常に少ない。不明本の被害が減ったことだけではICタグ導入の費用対効果には見合わないという指摘もあるだろうと考えられるので、取扱には注意。
- ・ICタグのゲートはどのくらい引っかかることがあるのか。  
→滅多にない。あっても、貸出手続き時のミスが大半である。他は、出入りが重なるとブザーが誤作動で鳴ってしまう性能的な問題もあるが、悪意を持ったケースというのは現時点では無い。(事務局)

#### ○生涯学習課より

- ・子ども読書推進計画も図書館の運営計画と同じサイクルで、これから改訂作業を進めていくところである。  
5年計画の中で定められた指標について現状の達成度が分かるよう、内部会議の資料等も今後図書館を通して協議会に提出したいと考えている。

#### ○委員意見

〈中学生の読書冊数の伸び悩みについて〉

- ・中学生は放課後に部活動などが始まり、時間の使い方が変わる。最近はデジタル化したコミックなどを手に取ることが影響しているのでは。  
また、読む本も難しくなっていくので、小学生と単純に冊数を比較するのは難しい。
- ・家庭の協力も必要不可欠である。
- ・家の中に活字が無いという環境が増えている。何かを読んで知るといふ面白さに気づいていない子どもも多いのではないか。
- ・子どものころの読書習慣というのは影響する。
- ・読書習慣が根付いていない子にどういった働きかけを行うべきかというのはまた別の課題である。
- ・マンガを否定するのではなく、そこから興味を引いてマンガだけではなく読み込んでいく体験を身に着けて、継続した読書活動につながるようになればいい

閉会